

## カーディフでの日本文化 特別展「KIZUNA」

### ウェールズの首都カーディフ

イギリス・ウェールズのカーディフは、ロンドンの西約 250km に位置する、人口約 33 万人（2011 年現在）のウェールズの首都です。カーディフは産業革命期に、周辺地域で採掘された石炭の集積地として飛躍的に発展した都市であり、港湾や鉄道はカーディフを中心に東西に延び、南ウェールズの最重要都市へと変貌を遂げました。エリザベス 2 世は 1955 年、カーディフをウェールズの首都とする勅許を与え、ここにカーディフはヨーロッパにおける最も新しい、また最も小さな首都となりました。

カーディフのウェールズ国立博物館にて、6 月 16 日より 9 月 9 日まで、日本の芸術やデザイン文化を紹介する特別展「KIZUNA」が開催されています。

【ウェールズの首都の中心部にあるカーディフ国立博物館】



### カーディフ国立博物館と特別展「KIZUNA」

カーディフ国立博物館はウェールズの首都の中心部にあり、芸術と自然科学の幅広いコレクションが一つ屋根の下に展示されている、英国でもユニークな総合博物館です。近代・現代美術の展示スペースとしてはウェールズ最大といわれており、モネ、マネ、ルノワール、ロダン、ドガ、セザンヌなど、世界の印象

派のコレクションが、パリの美術館以外では最も充実した展示となっています。

カーディフ国立博物館での特別展「KIZUNA」は、同館と、日本の文化庁、国立歴史民族美術館が主催し、東京国立近代美術館が特別協力、ANA が協力し、ウェールズに進出する日系企業が協賛しています。

【400 年にわたりウェールズ・チャーク城に所蔵されてきた日本の漆の洋櫃】



館内には、着物、陶磁器、漆器、屏風、近現代美術作品など、日本の主要な博物館が所蔵する貴重な資料の多くが英国で初めて展示されているものだそうです。

【日本の国立博物館で所蔵される屏風もイギリス初出展】



特別展「KIZUNA」の初日から多くの人々が来館し、日本への関心の高さが伺えました。

**ウェールズにおける日系企業**

文化的には400年の歴史を持つウェールズと日本ですが、産業の結びつきはどのように始まったのでしょうか。

日系企業が初めてウェールズに最初に進出したのは、1972年、プラスチック製造のタキロン（現タキロンシーアイ㈱、本社：大阪市）でした。次いでソニー、パナソニック、トヨタ自動車、カルソニックカンセイなどの日系メーカーが進出し、南ウェールズ-ロンドン間を結ぶ鉄道車両は日立製作所が生産したものです。このように、タキロンが進出した当時は、失業率が高かったウェールズですが、日系企業の経済的貢献は高く、現在では約50社の日系企業が進出し、約6,000人の雇用を生んでいるといえます。

【ウェールズにおける日系企業は約50社にのぼる】



**ウェールズと日本の深い関係**

特別展「KIZUNA」の開催を記念して、初日には、日本政府観光局主催のラグビー・ワールドカップ日本大会2019に向けた消費者向け訪日観光誘致イベントが開催されました。

当日は、およそ1,000人が訪れ、来館者には日本を訪れたことのある人も多く、ウェールズと日本の産業面、文化面の関係の深さを改めて実感しました。また、多くの人達から、来年は是非日本を訪れたいとの声が聞かれました。

【カーディフ国立博物館でおこなわれた訪日観光誘致イベント】



特別展「KIZUNA」では、9月9日までの間、七夕祭りや琴の演奏会、書道パフォーマンスなど様々なイベントが予定されています。

イギリスの中でも日本との関係があまり知られていないウェールズですが、産業、文化、スポーツなど多くの分野でより深い「KIZUNA」が築かれています。

以上

本レポートは情報提供のみを目的として作成したものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。  
 ご利用に関しては、すべてお客さま自身でご判断くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。  
 本レポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成していますが、当行はその正確性を保証するものではありません。  
 本レポートのご利用によりお客さまがいかなる損失、損害を受けられても当行は一切の責任を負いません。  
 本レポートはお客さま限りでご利用くださいますようお願いいたします。